

ミャンマーにおける 活動的で健康的な高齢者調査

日本老年学的評価研究 (JAGES) を参考に

佐々木由理

国立保健医療科学院国際協力研究部 主任研究官

アジア諸国では急速に高齢化が進行し、2050年には、途上国を含むアジア全域で高齢化社会を迎える。アジアの途上国の1つのミャンマーは、60歳以上の人口割合は2015年には7.9%であったが、2050年までに18.6%に達すると予測されている¹⁾。急速な高齢化や食生活の欧米化などの健康行動の変化に伴う非感染症疾患の増加や要介護の問題は、政治的な理由により長期に渡って他国から孤立していたミャンマーでは、十分な対策を講じられてこなかった。更に、2021年に国内で勃発したクーデターによる混乱、軍事政権の影響は計り知れない。そのような状況の中で、高齢者の現状を評価し、高齢化に対処するための効果的な政策を打ち出すことは重要である。

日本における地域在住の高齢者を対象とした大規模コホート調査に、「日本老年学的評価研究 (JAGES: Japan Gerontological Evaluation Study)」がある。健康長寿社会を目指した予防政策の科学的基盤づくりを目的として、2010・13・16・19年度に全国の30～64市町村と共同して、調査を実施してきた。JAGESは、人とのつながり(社会関係資本, SC: Social Capital)が豊かな地域に住む高齢者は、SCが乏しい地域に住む高齢者と比較して、健康を維持している傾向にあることなどを明らかにしてきた。また、JAGESで使用されている調査票の質問項目には介護リスクの社会的決定要因を検証するために、SC以外にも、高齢者の生活様式、病状、社会経済状況などに関する項目が含まれている。

高齢者の健康の社会的決定要因は、国や地域によって異なる可能性がある。各国や各地域の社会・文化的背景に応じた高齢者対策のアプローチを構築するには、それぞれの高齢者に関する社会人口統計データが必要となる。そこで、JAGES調査手法と得られたエビデンスが、東南アジア諸国の高齢者の調査でも適用可能かどうかを検証するため、ミャンマーの高齢者を対象としたコホート研究(「AMED地球規模保健課題解決推進のための研究事業」代表: 新潟大学 菖蒲川由郷) が立ち上がった(JAGES in Myanmar 2018)²⁾。

JAGES in Myanmar 2018では、ミャンマーの都市部ヤンゴンと農村部バゴの2つの地域で層化ランダム抽出法を用いて各地域600名(計1200名)の高齢者に対し、2018年にベースライン調査を実施した。調査では、JAGESで使用された調査票を参考にして、心身の状態、社会的ネットワーク、社会的支援、社会経済状況、市民参加、地域環境などについて構造的質問票を用いた訪問調査を行った。同時に、血圧、体重、身長、握力の客観指標データも得た^{3,4)}。

追跡調査は3年後(2021年)に計画していたが、国内の政治的混乱および新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻となったため、訪問調査から電話調査に変更し、可能な範囲の実施に留まっている。今後は得られたデータをJAGESの高齢者や、同様に研究を進めているマレーシアの高齢者を対象とした調査と比較して、地域特性(発展状況・社会経済・文化・環境)を考慮した上で、特にSCが不健康のリスクの軽減に影響を与えているのかどうかを検証する。JAGESなどの日本の大規模データや、欧米諸国で得られた高齢者研究のエビデンスがアジア諸国で当てはまるかどうかという視点は、今後のアジア諸国の急速な高齢化を鑑みる際、重要かつ不可欠である。

注

- 1) AgeWatch report card: Myanmar: HelpAge International
- 2) Win HH, Nyunt TW, Lwin KT, Zin PE, Nozaki I, Bo TZ, et al. Cohort profile: healthy and active ageing in Myanmar (JAGES in Myanmar 2018): a prospective population-based cohort study of the long-term care risks and health status of older adults in Myanmar. *BMJ Open*. 2020;10(10):e042877.
- 3) Jitapunkul S, Pillay I, Ebrahim S. The abbreviated mental test: its use and validity. *Age Ageing*. 1991;20(5):332-6. Epub 1991/09/01.
- 4) MacKenzie DM, Copp P, Shaw RJ, Goodwin GM. Brief cognitive screening of the elderly: a comparison of the Mini-Mental State Examination (MMSE), Abbreviated Mental Test (AMT) and Mental Status Questionnaire (MSQ). *Psychological medicine*. 1996;26(2):427-30.



Column
世界の
調査
／
日本の
調査

日本老年学的評価研究 (JAGES)

市町村と研究者との共同研究による縦断データ構築

宮國康弘

日本福祉大学社会福祉学部 講師／(一社)日本老年学的評価研究機構 理事

本稿では、全国64市町村において25万人規模でデータを収集し、保健・介護予防分野を中心に調査・研究に取り組む「日本老年学的評価研究¹⁾ (Japan Gerontological Evaluation Study, JAGES)」について紹介する。

市町村と研究者との共同研究

JAGESは、1999年に愛知県の2市町村で開始された「愛知老年学的評価研究(Aichi Gerontological Evaluation Study, AGES)」プロジェクトが母体である。筆者自身も参画しており、2010年に全国31市町村を対象を拡げて、現在も参加市町村が拡大している。JAGESの調査は、3年に一度実施される介護保険事業計画策定のための「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(以下、ニーズ調査)」の拡張版であり、介護保険者(市町村・広域連合)と多分野の研究者(所属機関は2018-19年実績で51機関)とが共同研究として、市町村の予算と研究者が獲得する公的研究費で実施されている。

調査票の構成と多様な調査項目

調査票は全体で16頁であり、挨拶文や調査説明(2頁)、コア項目(10頁)、バージョン項目(2頁)、市町村独自項目(2頁)で構成されている。コア項目には、厚生労働省がニーズ調査の手引きで提示している項目を中心に、基本的属性(年齢、性別、家族構成、婚姻状況など)、身体状況・健康状態(既往歴、BMI、虚弱、運動機能、認知機能、口腔機能、抑うつ、幸福度など)、社会経済的状况(世帯所得、教育歴、最長職など)、社会関係(社会参加、友人・知人との交流頻度、社会的サポートの授受など)の項目が多数含まれている。

また、バージョン項目には、多分野の研究者が関心のある項目を設定し、研究者の仮説に基づいて分析がなされる。コア項目は調査対象者全員に配布されるが、バージョン項目は8つに分けて調査対象者の8分の1ずつに無作為に配布される。25万人規模で調査票を回収するため、1バージョンあたりで約3万人のデータを用いた分析が可能となる。バージョン項目の分析

結果次第では、調査対象者全体に調査するために、次の調査からはコア項目に加えたり、または調査項目から外されて、新しい項目が追加されるなど、調査項目を検証・改善する仕組みがある。

縦断データの構築

因果関係に迫るには、一時点の横断データから時間的前後関係を考慮するために、縦断データの構築が不可欠である。3年に一度実施されるJAGES調査では、同じ個人に調査票を送付して、二時点で調査することで検証可能なパネルデータの構築を行なっている。パネルデータを構築することで、3年前には抑うつ状態ではなかった個人が、新たに抑うつ状態を発生するリスク要因の検証が可能となる。

さらに、調査から3年後以降に調査票に回答した個人の要介護認定情報(要介護度や認定日等)、介護保険料賦課情報(死亡や転出等)、介護給付費実績情報(介護サービスの利用)を研究協定に基づいてご提供いただき、調査データに突合することでコホートデータを構築している。コホートデータを構築することで、要介護状態または死亡に至りやすい人の特徴の検証や、介護費の抑制に寄与する要因などの検証が可能となる。

このようにJAGES調査は、市町村と研究者との共同研究であり、調査項目も豊富で、多数のアウトカムが検証できるよう設計され、因果関係に迫るための縦断データの構築が可能となるような仕組みを築いてきた。この仕組みが維持できているのも、市町村と研究者が互いにWin-Winの関係にあるからである。このような仕組みや取り組みは、政策に科学的知見を反映する取り組みのモデルとして、世界保健機関(WHO)からそのプロセスを紹介するモノグラフが出版されている。

本稿を読んだ市町村担当者や研究者がJAGESに参画していただくことを願っている。

注

1) JAGES代表: 近藤克則(千葉大学予防医学センター教授／国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部部長／(一社)日本老年学的評価研究機構代表理事)